

各都道府県及び市町村の教育委員会関係者
小学校の英語専科先生

『昭和女子大学附属昭和小学校の授業実践』 ～児童の英語運用能力を可視化し、学びに価値 づけする指導と評価の在り方～

ETS※¹が委託を受け、MEXCBT(メクビット)※²に掲載された
4技能CBT問題とTOEFL Primary®の活用

(※1) ETS (Educational Testing Service) ...TOEFL iBT®、TOEFL Primary®/TOEFL Junior®、TOEIC®
外部検定試験を作成しているアメリカのテスト機関

(※2) MEXCBT(メクビット)=文部科学省CBTシステム(eポータルで活用可能)



『文部科学省CBTシステム (MEXCBT:メクビット)について』

の詳細は文部科学省のホームページを
ご参照ください。

下記、QRコード、または、
リンクからアクセスして下さい。



https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00001.html

昭和女子大学附属昭和小学校英語教育アドバイザー
聖学院大学、東京女子大学 小学校（児童）英語科目担当講師

幡井理恵

メタメトリックス社公認レクサイルエデュケーター

一般社団法人 国際教育英語試験協会公認

TOEFL Primary®/TOEFL Junior® アドバイザー



目次

1. はじめに	
～今後の小学校英語教育における活用の在り方を提案～	p.2
2. TOEFL Primary®活用の意義	
～世界基準に照らした自らの熟達度を知る機会～	p.4
3. 事前授業取り組みまでの準備	p.4
3.1 事前授業の概要と流れ	
～5・6年生を対象に計3回の事前授業を実施～	p.4
3.2 事前授業のねらい	
～目的や意義を理解し、前向きな気持ちで受験、 単なるイベントにしない為～	p.7
4. 事前授業と使用問題について	p.8
4.1 授業1回目「TOEFL Primary® Testって何だろう？」	p.8
4.1.1 授業構成	p.8
4.1.2 使用問題とその選定理由	p.8
4.2 授業2回目「Listening特化」	p.13
4.2.1 授業構成	p.13
4.2.2 使用問題とその選定理由	p.14
4.3 授業3回目「Reading特化」	p.15
4.3.1 授業構成	p.15
4.3.2 使用問題とその選定理由	p.15
5. 児童の振り返り(Google Form)の分析結果	p.17
5.1 授業1回目の振り返り	p.17
5.1.1 Listening	p.17
5.1.2 Reading	p.17
5.1.3 自由記述から見られたこと	p.18
5.2 授業2回目の振り返り	p.18
5.3 授業3回目の振り返り	p.19
5.4 成長の分析(縦断的視点)	p.19
6. TOEFL Primary®活用のポイントと今後への期待と展望	p.20
6.1 TOEFL Primary®活用のポイント	p.20
6.2 MEXCBT(メクビット)の今後への期待と展望	p.20
7. おわりに～目的意識を育み、未来へ向けた英語学習へ～	p.22

1. はじめに～今後の小学校英語教育における活用の在り方を提案～

2020年度より全面実施された新学習指導要領では、「知識・技能」「思考・判断・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に基づき、全教科において資質・能力の育成が求められるようになりました。これに伴い、小学校外国語においても、英語を用いて思考し活用する力の育成にとどまらず、将来にわたって必要とされる非認知能力や主体的に学習へ向かう態度、さらには人間性の涵養といった、言語力に付随する要素の育成にも重点が置かれるようになっていきます。

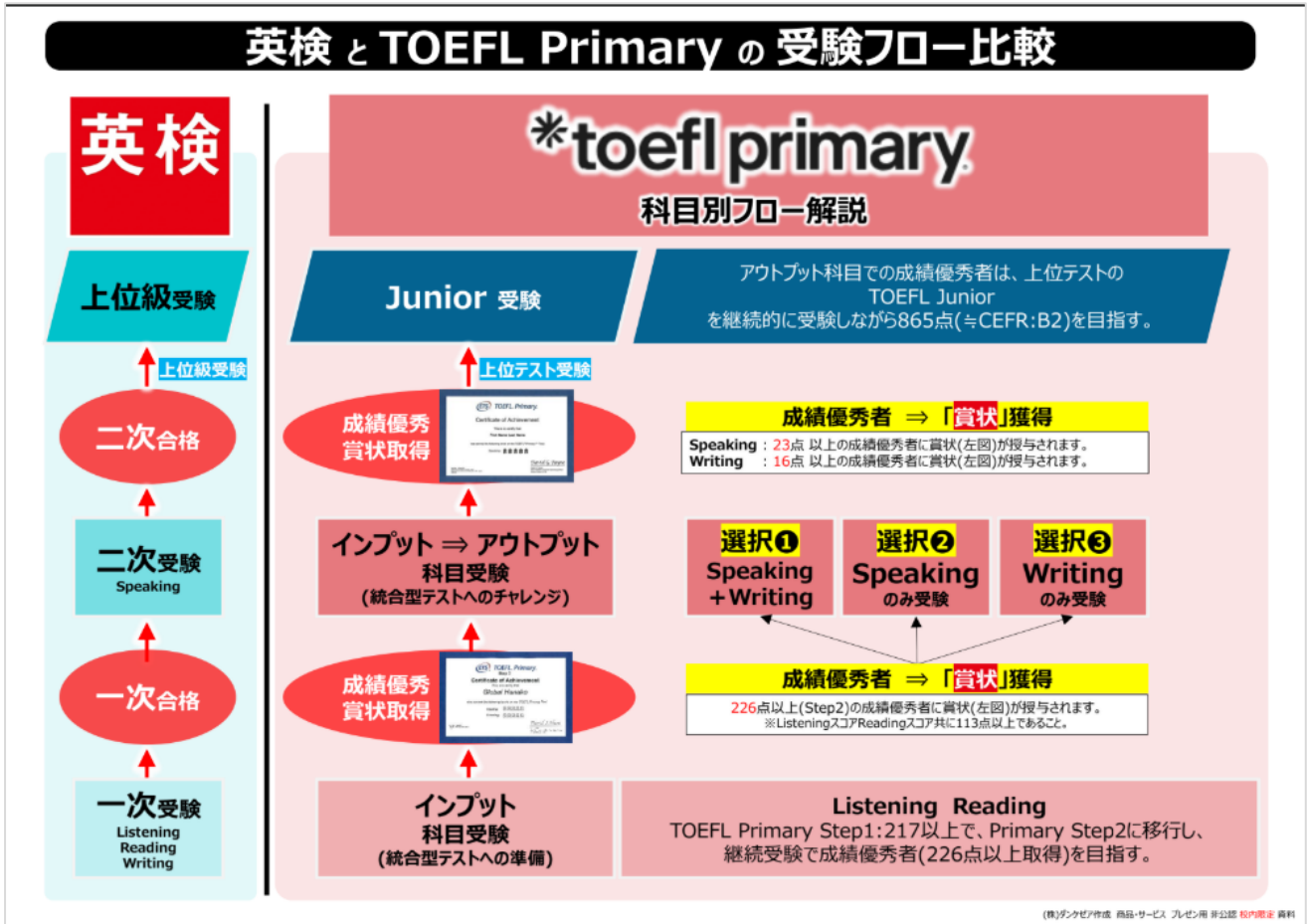
昭和女子大学附属昭和小学校では、このような教育的要請を踏まえ、児童一人ひとりの成長に寄り添いながら、共通の五つの資質・能力(自分づくり・コミュニケーション・思考力・表現力・持続チャレンジ)を総合的に育む英語教育の実践に取り組んでいます。特に本校は、「聞くこと」「読むこと」といった(※3)受容的スキルを基盤とし、それに伴って高まる「話すこと」「書くこと」といった産出的スキルにも配慮しながら、英語運用能力を段階的かつ系統的に育成しています。

こうした指導の成果や課題を客観的かつ多面的に把握する手段として、本校は英語力の「到達度」を測定するテストではなく、「熟達度」に着目した(※4)TOEFL Primary®を導入しました。2018年度には希望者による受験を開始し、2022年度からは5・6年生で全員受験を実施、2023年度には4年生の希望者、2024年度には3・4年生の希望者へと対象を広げ、段階的に受験機会を拡充してきました。

本テストは、教師による一方向的な成績評価の手段としてではなく、児童一人ひとりの学習過程や成長の軌跡を可視化し、学びに価値づけを行う「学習評価」として、年に1度の授業内受験を位置づけています。得られたデータは、成績表等の公式な評価には反映させず、児童の個別のニーズに即した指導改善や支援に活用するとともに、保護者に対して児童の英語運用能力を客観的に伝える資料としても活用しています。

本報告では、TOEFL Primary®の導入とその活用の意義を踏まえつつ、2025年7月に実施した本テストに向けた事前授業の設計と実施方法をご紹介します。とりわけ、事前授業において使用した設問の選定理由、児童のふりかえり、さらには「知識・技能」の定着状況を確認するのみならず、「思考力」や「学びに向かう力・人間性等」といった資質・能力の育成を意図した授業実践の具体について報告し、今後の小学校英語教育における活用の在り方を提案します。

(※3)受容的技能を参考とした考え方-TOEFL Primary®フロー



2. TOEFL Primary®活用の意義

～世界基準に照らした自らの熟達度を知る機会～

近年、評価は単なる成績付けではなく、児童の学びを支え、深めるための手段として捉え直されています。(※5)国立教育政策研究所も、「学習評価は、学習の成果を測定するだけでなく、児童の学習を支援し、学習の改善や指導の改善につなげていくことを目的とするべきである」と述べ、「指導と評価の一体化」の重要性を強調しています(国立教育政策研究所, 2020)。本校はこの考え方にに基づき、TOEFL Primary®を学習の成果を測るだけでなく、児童の主体的な学びを支える評価の一環として活用しています。

本テストの導入により、児童は教員による評価に加えて、世界基準に照らした自らの熟達度を知る機会を得ることができます。こうした客観的な指標は、自身の学習状況を他者と比較するのではなく、自分の成長を確認するための手がかりとして、次の学びへとつなげていく原動力となります。

また、TOEFL Primary®には合否判定がなく、点数の高低によって評価を受けるものではないため、結果をもとに「自分は何ができ

ているのか」「どこを伸ばしていきたいか」といった建設的な自己内省を促すことができます。児童自身が自らの課題や強みに気づき、内省するプロセスは、主体的・対話的で深い学びを実現する上で極めて重要であり、自己調整的な学習者としての姿勢を育むことにもつながります。

さらに、こうした外部評価の結果は、児童の学びをよりの確に支援するための指導改善に資するだけでなく、保護者に向けても、児童の英語力を客観的かつ信頼性のある形で伝える資料となります。本校は、評価の公平性の観点から、テスト結果を成績表には含めず、児童の学習と成長を支援するための補助的な評価資料として位置づけているということを児童と保護者に伝えて試験を実施しています。

(※5)国立教育政策研究所. (2020). 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料：外国語・外国語活動

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_gaikokg.pdf

3. 事前授業の取り組みまでの準備

3.1 事前授業の概要と流れ～5・6年生を対象に計3回の事前授業を実施～

2025年度におけるTOEFL Primary®の5・6年生全員受験に先立ち、本校は5・6年生の各3クラスを対象に、計3回の事前授業を実施しました。事前授業は各クラス3回に渡って行われ、加えて、テストの解答用紙の事前記入

と(※2,6,7)MEXCBT(メクビット)の導入に関する説明を目的としたオリエンテーションを最終回として1回設け、合計4回の構成としました。

MEXCBTを活用した 英語「話すこと」「書くこと」の力の強化

別添2

目的

- ◎英語4技能をバランスよく育成するために、特に課題となっている「**話すこと**」「**書くこと**」の**力の強化**に向けて、CBT問題を活用して、児童生徒の個別最適な学びや教師の指導の充実に支援。
 - ・**MEXCBT(文部科学省CBTシステム)**に、「話すこと」「書くこと」を中心としたCBT問題を搭載。
 - ・各CBT問題を、国際標準である**CEFR(※1)レベルと紐づけ(※2)**。
 - (※1) ヨーロッパ言語共通参照枠。第4期教育振興基本計画(令和5年6月16日閣議決定)において、中学校卒業段階でCEFR A1レベル相当以上、高等学校卒業段階でCEFR A2レベル相当以上を達成した中高生の割合を6割以上にするなどを目指す。
 - (※2) 外部検定試験のように、CEFRレベルを認定するものではない。

搭載するCBT問題

- ETS(※)に委託し、「話すこと」「書くこと」を中心としたCBT問題を**100問(CEFR A1未満~B2レベル相当)**搭載。(問題や解答・解説イメージは別添参照)
 - (※) ETS Japan 合同会社。TOEFL®, TOEIC®等の外部検定試験を作成している米国ETSの日本法人。
- その他、全国学力・学習状況調査の過去の調査問題や、英語教育関係団体(※)作成の問題も併せて搭載。
 - (※) ブリティッシュ・カウンシル、日本英語検定協会 協力

活用のメリット

- ①児童生徒の学習状況に応じた**個別最適な学び**を通じて、「話すこと」「書くこと」の力の強化
 - ・児童生徒の学習状況に応じて、教師が適切なCBT問題を選択し、家庭学習の課題として活用 など
- ②教師による、児童生徒の**英語力のより客観的な把握**をサポート
 - ・「話すこと」「書くこと」の**パフォーマンステストとして活用**
 - ・定期テスト等の題材として活用 など
- ③**多彩なテーマや題材を用いた授業づくり**をサポート
 - ・日常的な話題から社会的な話題まで、幅広いテーマや題材を扱ったCBT問題の中から、教師が自由に選択し、授業中に活用 など

今後の予定

- MEXCBTにCBT問題を**5月9日**に公開予定。(随時、追加予定)
- 本取組やその具体的な活用方法について、全国の教育委員会や学校に対して、周知予定。

MEXCBTに搭載されるCBT問題のイメージ

別添

特徴

問題 教師は、技能やCEFRレベル（CEFR A1未満～B2レベル相当）ごとに問題の選択が可能。

問題 多彩なテーマや題材から問題の選択が可能。

題材例：自分の好きなもの、身の回りの物事、自然科学、歴史 など

解答・解説 解答内容に応じてCEFRレベルの把握が可能。

解答・解説 学習のアドバイスを参考に、学習に役立てることが可能。

「話すこと」問題（画面イメージ）



録音は2回まで可能

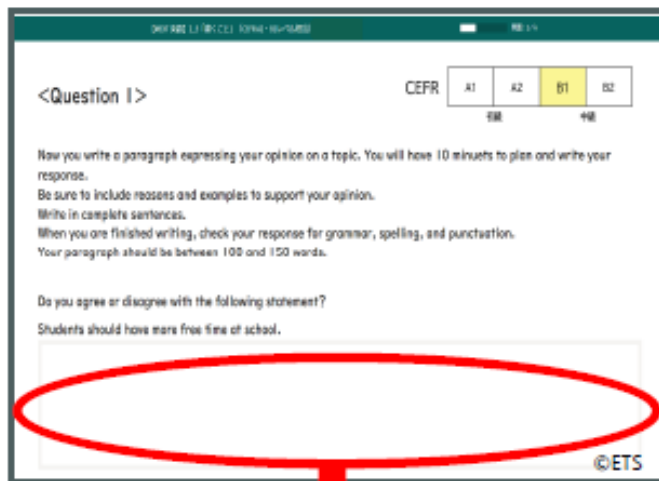
自分の解答音声を再生して聞くことが可能

「話すこと」解答・解説（画面イメージ）



英語を学習している、世界の子供たちの解答例を音声で聞くことが可能

「書くこと」問題（画面イメージ）



キーボード入力をして解答することが可能

「書くこと」解答・解説（画面イメージ）



学習のアドバイスを参考に、学習に役立てることが可能

事前授業3回は、普段の英語指導者ではなく、TOEFL Primary®の導入・実施を担当する立場として、筆者が全クラスを横断的に指導しました。これは、児童にとって非日常的なテストに対する心理的なハードルを下げるとともに、普段の学習單元との差別化を図る狙いも含まれています。

3.2 事前授業のねらい～目的や意義を理解し、前向きな気持ちで受験、単なるイベントにしない為～

事前授業のねらいは、TOEFL Primary®をただのテストと捉えるのではなく、その目的や意義を理解し、前向きな気持ちで受験に臨めるようにすることです。特に、実際に問題に取り組む体験を通して、「英語でできること」や「自分の苦手な問題」に気づき、自分の今の学びの状態を確かめられるようにすることを大切にしました。

また、Step 1とStep 2のテストレベルの違い(3ページ参照)については、説明を通して理解させるのではなく、児童自身がStep 1の各セクションのそれぞれの問題に触れてみたうえで、「自分には簡単だったか、難しかったかを基準にして」どちらのレベルを受験するか納得して選べるようにすることを意図しました。

授業では、ピアラーニングの方法も一部取り入れ、個人で問題の内容や解き方を考えたり、ペアやグループで話し合ったりする時間を設けました。友達の考えに触れることで、自分が気づかなかった問題の解き方や解答に至るまでの視点を知り、新たな気づきや理解につながるよう工夫しました。そして、テスト直前にもう一度振り返りができるように、授業中の気づきを書き留めておけるメモ欄付きの

友達と確認し合ったことをメモしておきましょう。☺

Part 3☺

このパートの問題にはどのような特徴が見られますか？ 何に気を付ければ良いと思いますか？ ☺
他に気付いたことはありましたか？☺

Part4☺

このパートの問題にはどのような特徴が見られますか？ 何に気を付ければ良いと思いますか？ ☺
他に気付いたことはありましたか？☺

Part5☺

このパートの問題にはどのような特徴が見られますか？ 何に気を付ければ良いと思いますか？ ☺
他に気付いたことはありましたか？☺

このパートの問題にはどのような特徴が見られますか？ 何に気を付ければ良いと思いますか？
他に気付いたことはありましたか？

専用回答用紙を配付しました。自分の学びを可視化し、安心して本番に臨めるようにするためのサポートのひとつです。

さらに、MEXCBTに掲載されたCEFR A1未満からA2レベルまでの「聞くこと」「読むこと」のコンピュータベーステスト(CBT)問題を、自宅学習用教材として活用できるようにしました。これにより、児童は家庭でもCBT形式で問題に慣れることが出来たり、授業で扱わなかったレベルの問題を自主的に選んで学習したりすることができるようになりました。これによって、事前授業で払拭しきれなかった不安を軽減しながら、テストに対する心構えを整えることが可能となります。

以上のように、事前授業をTOEFL Primary®とその結果に対する児童の構えを前向きなものとし、自律的な学びへとつなげていくための重要なステップとして位置づけました。

4. 事前授業と使用問題について

4.1 授業1回目「TOEFL Primary® Testって何だろう？」(45分)

4.1.1 授業構成

【目標】「デモテストに挑戦して、自分ができる！と感ずる問題のレベルを見つけよう。」

【評価規準(3観点对応)】

- ・ Listening・Readingの例題に取り組む中で、英語の音声や語句・文の理解度を把握する。(知識・技能)
- ・ 問題への取り組み方や解答理由の共有から、思考のプロセスや表現力を捉える。(思考・判断・表現)
- ・ 活動中や振り返りから、自分の課題を見つけようとする。(学びに向かう力・人間性等)

4.1.2 使用問題とその選定理由

事前授業の初回である本授業で使用するTOEFL Primary®の問題は、以下の観念に基づいて慎重に選定しました。

①各Partから満遍なく問題を抽出

『はじめてのTOEFL Primary®テスト問題集 Step1』(くもん出版, 2015)のListeningおよびReadingの各Part からバランスよく問題を取り上げ、児童が幅広い問題形式や内容に触れられるようにしました。これにより、テスト全体の構成や出題傾向を体感的に理解することができます。

各パートの設問の種類と一般的な例題(解説付)は9~12ページをご参照ください。

■ 指導の流れ(授業手順)

1. Greeting/導入(5分)

- ・ あいさつ
- ・ テスト日程と準備授業4回の説明
- ・ 英語のテストの種類と目的を紹介(英検®とTOEFL®の違いなど)

2. 目標の共有(5分)

「デモテストに挑戦して、できる！と感ずる問題のレベルを見つけよう」

3. 【Listening体験】(5分)

- ・ 『TOEFL Primary®テスト問題集 Step1』 Listening Test1より8問

4. 【Listening答え合わせと解説】(10分)

- ・ 正答の確認・内容語の確認
- ・ 正答理由の共有・間違えた要因の考察

5. 【Reading体験】(5分)

- ・ 『TOEFL Primary®テスト問題集 Step1』 Reading Test1より8問

6. 【Reading解説】(10分)

- ・ 内容語の確認
- ・ 正答理由の共有・間違えた要因の考察

7. 【振り返りシート】(3分)

- ・ Google Formでの記入
- ・ 学習感想・できたことの記録

8. 【感想共有・まとめ】(2分)

- ・ 次回の授業の予告

Listening



Part 1

Unit 6 Picture Descriptions (絵を見て聞いて答えよう <状態>)

CD 1
1 Listen to the sentence. Look at the pictures. Choose the correct picture.
(文章を聞いて、正しい絵を選びましょう。)

1



(A)



(B)



(C)

Script

She is drinking water.

Answer

1. 答え (B)

この問題では、この人が何をしているのかを答えます。水を飲んでいる女の子の絵を探しましょう。正解は(B)です。

Part 2

Unit 7 Instructions (絵を見て聞いて答えよう <指示>)

CD 1
4 Listen to the sentences. Look at the pictures. Choose the correct picture.
(文章を聞いて、正しい絵を選びましょう。)

1



(A)



(B)



(C)

Script

T: Good morning, everyone. Please hang your backpack on a hook by the door.

Answer

1. 答え (A)

ドア近くのフックに背負ってきたランドセルを生徒たちが掛けている絵を探しましょう。正解は(A)です。

Part 3

Unit 8 Short Conversations (短い会話)

CD 1
7 Listen to the conversations. Which conversation sounds correct?
(会話を聞き、正しい会話を選びましょう。)

1

(A)

(B)

(C)

Script

B: Do you want to play on the slide?
(A) Yes, of course.
(B) No, she is not nice.
(C) Yes, we better go home.

Answer

1. 答え (A)

「滑り台で遊びたいですか」という質問に対する答は、(A) Yes, of course. (はい、もちろんです) です。

Listening

Part 4

Unit 9 Long Conversations (長い会話)



Listen to a conversation and answer a question.

(会話を聞いて、問題に答えましょう。)

1 What does the boy want?

- (A) An eraser
- (B) Some paper
- (C) One more pencil

2 What will the boy do next?

- (A) Read a book
- (B) Hang up his coat
- (C) Sit down in a chair

Script

- | | |
|--|---|
| 1. B1: This test looks hard.
B2: I agree. Do you have a pencil I can borrow?
B1: Yeah, here you go.
B2: Thanks, I just want to have an extra one. | 2. W: Hello. Welcome to my classroom.
B: Thanks. I am excited to start a new class.
W: How about you find somewhere to sit?
B: OK, I'll do that right now. |
|--|---|

Answer

1. 答え (C)

これは試験中にした2人の少年の会話です。1人が、予備の鉛筆を別の少年から1本借りたいと言っています。したがって、「少年は何かがほしいですか」という質問に対する答えは、(C) One more pencil. (鉛筆をもう1本) です。

2. 答え (C)

これは先生と少年の会話です。先生は少年に、席を見つけて座るよう言い、少年は「はい、すぐそうします」と言いました。したがって、少年が次に行う行動は、(C) Sit down in a chair. (いすに座る) です。

Part 5

Unit 10 Short Messages (短いメッセージ)



Listen to a message and answer a question.

(メッセージを聞いて、問題に答えましょう。)

1 Why did Tyler call?

- (A) To ask for his book back
- (B) To explain the reading book
- (C) To decide where to meet tomorrow

Script

F: Hey, Steve. It's Tyler. I forgot my book at your house. Can you bring it to school with you tomorrow? I will get it from you then.

Answer

1. 答え (A)

このメッセージは、タイラーがスティーブの家に本を忘れたので、明日学校に持って来るように頼んでいます。したがって質問の答えは、(A) To ask for his book back (本を返すように頼むため) です。

Reading

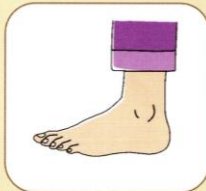
Part 1

Unit 1 Picture Word Descriptions (絵を見て読んで答えよう〈単語〉)

Look at the picture. Read the words. Which word goes with the picture?

(絵にあてはまる語はどれですか。)

1



- (A) Foot
- (B) Hand
- (C) Arm

Answer

1. 答え (A)

絵は「足」です。したがって正解は (A) Foot です。

Unit 2 Picture Sentence Descriptions (絵を見て読んで答えよう〈文〉)

Look at the picture. Read the sentences. Which sentence goes with the picture?

(絵にあてはまる文はどれですか。)

1



- (A) The door is open.
- (B) Today is cloudy.
- (C) The window is open.

Answer

1. 答え (C)

絵では、窓が大きく開いていて太陽が照っています。したがって正解は (C) The window is open. (窓は開いています) です。

Part 2

Unit 3 Word Riddles (なぞなぞ)

Read and find the answer.

(問題を読んで、答えを選びましょう。)

1 They cook food for you. They work in restaurants. They sometimes wear a white hat.

They are _____.

- (A) chefs
- (B) nurses
- (C) astronauts

Answer

1. 答え (A)

問題文では、レストランで、白い帽子をかぶって料理をする人の事が書かれています。したがって正解は (A) chefs (シェフ, コック) です。

Reading

Part 3

Unit 4 Various Forms (いろいろな文)

Read the invitation. Then answer questions 1 and 2.

(招待状を読んで、答えましょう。)

Come to my 9th birthday party!

Friday, December 12th
5:00-8:00 p.m.

Pizza Land
1112 4th Street South
Los Angeles, California

Contact me, Steven 323-416-6656
supersteven@bob.com

1 What will they eat at the party?

- (A) Sandwiches
- (B) Pizza
- (C) Hotdogs

2 When does the birthday party end?

- (A) 5 PM
- (B) 7 PM
- (C) 8 PM

Answer

1. 答え (B)

この問題は、9歳の子の誕生パーティーに何が出るかです。パーティーはPizza Landですのだから、パーティーではピザを食べるのだろうと考えられます。したがって正解は(B) Pizza (ピザ) です。

2. 答え (C)

この問題は、パーティーがいつ終わるのかを聞いています。招待状には、パーティーの時間が5p.m.から8p.m.と書かれています。したがって正解は(C)8PM (午後8時) です。

Unit 5 Short Passages (短い文章)

Read the email. Then answer questions 1 and 2.

(Eメールを読んで、質問に答えましょう。)

Gloria,

I made a mistake! I forgot to write down when the math test is. This unit was so difficult for me. I need to know when the test is. Could you send me an email back about when it is? Also, do you want to study for the test together? We could do it at my house. My mom will make us some snacks!

Your friend,
Katie

1 Who made the mistake?

- (A) Gloria
- (B) Katie
- (C) The mom

2 What was the mistake?

- (A) Someone didn't study.
- (B) Someone forgot to go to math class.
- (C) Someone forgot when a test is.

Answer

1. 答え (B)

Eメールを送ったのはケイティで、最初に「私が間違いをしました」と書いています。したがって正解は(B) Katieです。

2. 答え (C)

このEメールは、数学の試験の予定についてです。ケイティは、書きとめておくのを忘れたため、試験がいつなのかを聞いています。したがって正解は(C) Someone forgot when a test is. (試験がいつなのかを忘れた) です。

②全国の小学校の授業でも扱われる語彙や表現を優先

問題に含まれる語彙・表現には、日常的な授業や活動の中で児童がすでに出会っているもの(例：天気、学校生活の指示語句、身近な名詞など)を含むものを多く選びました。これにより、児童が既習内容と結びつけて自信をもって取り組むことができ、初回のテスト体験として前向きな印象を持たせることができます。

③『Let's Try!』や検定教科書に関連する単元からの出題

使用した問題の多くは、学習指導要領に基づいた中学年の共通教材『Let's Try!』や検定教科書に含まれる内容と関連しています。例えば、「文房具」「天気」「命令文」などは、Let's Try! 2 の各ユニットで頻繁に扱われている語彙であり、児童にとって親しみやすいトピックです。また、検定教科書も本校で使用しているものだけでなく、全出版社の単元を確認し、どの教科書でも触れられている内容を抽出しました。

■小学校外国語 検定教科書を発行している全出版社 (令和6年度版)		
出版社名	教科書名	対応学年
東京書籍	NEW HORIZON Elementary	5年・6年
開隆堂出版	Junior Sunshine	5年・6年
三省堂	CROWN Jr.	5年・6年
教育出版	One World Smiles	5年・6年
光村図書出版	Here We Go !	5年・6年
啓林館	Blue Sky	5年・6年

④児童の日常生活・学校生活に即した内容を重視

「教室での指示(例：Open your books.)」「身の回りの物(例：文房具)」「家庭やが学校での活動(例：手伝い・掃除)」など、児童にとって身近で具体的な場面を想起しやすい問題を優先して選定しました。これにより、児童が「英語でできること」を実感しやすくなり、自分ごととしてテストを捉えるきっかけとなります。

なお、初回となる第1回は、あくまで児童に正解させ、自信をつけさせることを目的として問題を抽出しました。そのため、過度に難しい問題は避け、本時の目標にも掲げた通り「わかった!」「できた!」という成功体験を通じて、今後の学びへの意欲を育む構成としました。

4.2 授業2回目「Listening特化」(45分)

4.2.1 授業構成

【目標】「テストに向けて、英語の指示を楽しんで聞き、あきらめずに解くための方法を見つけよう。」

【評価規準(3観点对応)】

- ・短い英語のやりとりを聞いて、内容を正しく理解できる。(知識・技能)
- ・リスニングの理解度に応じて、自分に合った課題やテストを選ぶことができる。(思考・判断・表現)
- ・自分にとっての課題を自覚し、聞き方や戦略を考えようとする。(主体的に学習に取り組む態度)

4.2.2 使用問題とその選定理由

【第1回の選定方針と共通するポイント】

① 各Partからのバランスの取れた出題

ListeningのPart 2～5までから満遍なく問題を抽出し、児童が幅広い形式・内容に触れるよう配慮しました。これにより、テスト全体の構成や出題傾向を体感的に再度確認することができ、英語テストに対する抵抗感の軽減を図ることを目的としました。

② 全国の小学校で扱われる語彙・表現を優先
「命令文(Turn off the TV.)」「疑問文(Can I ~?)」など、教室内外で日常的に耳にする表現が多く含まれた問題を選びました。児童にとって既習の語彙が含まれることで、テストが「わかる」「できる」という自信を保ったまま、次のレベルへもチャレンジ精神を発揮できるよう意図しました。

③ 『Let's Try!』や検定教科書に関連する単元からの出題

『Let's Try! 2』のUnit4 This is my day. やUnit5 He can run fast.、検定教科書で扱われる内容と関連の深い問題を選定しました。これにより、聞こえてくる英文が少し長いと感じるものであっても、諦めずに聞き続けていけば、既習の単語や表現が出てきて、日頃の授業との接続を意識しながら取り組めるようになります。

④ 児童にとって身近な生活・学校生活が題材

問題のジャンルとして「日常生活」「学校生活」に関するものを中心に選定し、「掃除」「食事」「スポーツ」など、児童が経験

■ 指導の流れ(授業手順)

1. Greeting／導入(5分)

- ・あいさつ
- ・前回の授業を思い出すためのペア・グループトーク

2. 目標の共有(5分)

- 「英語の指示を楽しんで聞き、あきらめずに解く方法を見つけよう！」
- ・マークシート配布(メモ欄付き)

3. 【Listening体験】Warm-up Part 2より(5分)

『TOEFL Primary®テスト問題集 Step1』
Listening Test2より

- ・絵から選ぶ形式の問題(3問)
- ・答え合わせと気づきの共有

4. 【Listening体験】Part 3～5の(15分)

- ・問題に一気に取り組む(9問)
- ・正誤確認と間違えた要因の分析

5. 【Listening解説・見方・考え方の共有】(感想共有)(10分)

- ・ワークシートへのメモ
- ・「どんな問題が出たか」「どうすれば解けるか」などをペアトーク・全体で共有

6. 【振り返りシート】(3分)

- ・Google Formでの記入
- ・学習感想・できたことの記録

8. 【感想共有・まとめ】(2分)

- ・次回の授業の予告

している場面とつながる内容を重視しました。これにより、英語が“自分ごと”として捉えられるようになり、学習の動機付けを高める効果が期待されます。

【第2回で新たに追加・重視したポイント】

⑤ Part 2の絵を使った問題をウォームアップに活用

第1回の児童の振り返り結果から、Part 1やPart 2の「絵を見て単語を選ぶ」形式は

「できた！」と感じる児童が多かったため、第2回ではPart 2をウォームアップとして活用しました。安心感を与えつつ、自然に学習モードに入れる導入となるようにしました。

⑥ Part 3以降を学習の中心に設定

第1回の児童の振り返り結果では、Part 3以降の難易度が高く感じられる児童が多かったことから、今回はその部分を「本時の学習ポイント」と位置づけ、聞き取り内容や設問形式への理解を深める活動を展開しました。これにより、挑戦的な問題にも前向きに取り組む姿勢の育成をねらいました。

⑦ 英語力に応じた差を認めながら、多様な児童に対応

英語力の高い児童にとっても満足感のある活動となるよう、チャレンジ性の高いPart 5までを含めました。一方で、多量の英語を聞き続けることに不安を抱える児童も、Part 5の問題に触れておくことで「英語を聞き続ける力(耐性)」を育てることを目的とし、テストへの心理的ハードルを下げる配慮もしました。

4.3 授業3回目「Reading特化」(45分)

4.3.1 授業構成

【目標】「テストに向けて、単語や短い英語の文を楽しんで読み、あきらめずに解くための方法を考えよう！」

【評価規準(3観点对応)】

- ・単語や短い英文を読んで、内容を正しく理解できる。(知識・技能)
- ・リーディングの理解度に応じて、自分に合った課題やテストを選ぶことができる。(思考・判断・表現)

- ・自分にとっての課題を自覚し、読み方や戦略を考えようとする。(主体的に学習に取り組む態度)

4.3.2 使用問題とその選定理由

【第1回・第2回の選定方針と共通するポイント】

① 各Partからのバランスの取れた出題

ReadingセクションのPart 1～3までからバランスよく問題を抽出しました。(Part 1:5問、Part 2:5問、Part 3:6問)。児童が様々な出題形式を再確認することで、TOEFL Primary®の出題傾向やテスト構成の理解を自然に深められるようにするためです。

② 小学校の授業で扱われる語彙や表現を優先

選定された問題には、「天気」「教室内の物の位置(前置詞)」「スポーツ」「交通手段」など、児童がこれまでの授業で目にしたり聞いたりしてきた表現が多数含まれています。たとえば“write,” “read,” “ride a bike,” “next to” など、普段の教室英語で親しみのある語彙に重点が置かれており、自信をもって取り組めるように設計されている点を活かしました。

③ 『Let's Try!』や検定教科書との関連性を重視

特に Unit4 学校の中を探検しよう、Unit 3 Can you play dodgeball?、Unit3 My weekendなどは、『Let's Try!』や検定教科書などを通して児童が親しんでいるテーマであり、テスト問題との接続が自然に図れる構成となっています。

しかし、Part 3には小学校学習指導要領の範囲を超えるような長文も含まれており、初見でそのまま内容を読み取ることが難しい問題もあります。ただし、同じ単語や情報を文中から見つけ出すことができれば正解にたどり着けるよう設計されている問題もあり、児童には「文字の量」に圧倒されず、情報を得ようとする姿勢や耐性を育てるねらいも含まれています。このように、既習内容に関連した語彙を手がかりに、「できた!」という達成感を得ながら、より高度な読解への足がかりを築けるようにと考えました。

④ 身近な生活・学校生活を題材にした出題

ジャンルの多くが「日常生活」や「学校生活」に関係しており、「文房具の位置を表す表現」「天気」「掃除」「読書」など、児童が日々の生活で実際に経験している場面を英語で捉える力を伸ばせるように選定しました。

【第3回で追加・重視したポイント】

⑤ 自己選択式の課題設計による「主体的な学び」の促進

今回、5・6年生の全員がTOEFL Primary®テストを受験するにあたり、特に本校の5年生については、段階的に取り組んでいるカリキュラムをもとにすると、Part 3の難易度が高くなる可能性があるかと想定されました。そこで、5年生は児童自身が① Part 3にチャレンジする、②Part 1~2の別の問題に再チャレンジする、のいずれかを自分で選択できる構成にし、Part 1~2の問題を追加で選定しました。これにより、英語力に応じた選択を通して、読解力とともに判断力や学習への姿勢も育成することを意図しました。

■ 指導の流れ(授業手順)

1. Greeting／導入(5分)

- ・あいさつ
- ・前回の授業を思い出すためのペア・グループトーク

2. 目標の共有(5分)

- 「単語や短い英語の文を楽しんで読み、あきらめずに解くための方法を考えよう!」
- ・マークシート配布(メモ欄付き)

3. 【Reading体験】 Warm-up Part 1より(5分)

『TOEFL Primary®テスト問題集 Step1』
Reading Test2より

- ・絵を見て英語を読み取る問題(5問)
- ・答え合わせと気づきの共有

4. 【Reading体験】 Part 2・3の(15分)

- ・問題に一気に取り組む(11問)
- ・正誤確認と間違えた要因の分析
- ＊5年生のみ問題の一部を変更

5. 【Reading解説・見方・考え方の共有】(感想共有)(10分)

- ・ワークシートへのメモ
- ・「どんな問題が出たか」「どうすれば解けるか」などをペアトーク・全体で共有

6. 【振り返りシート】(3分)

- ・Google Formでの記入
- ・学習感想・できたことの記録

8. 【感想共有・まとめ】(2分)

- ・次回の授業の予告

5. 児童の振り返り(Google Form)の分析結果

5.1 授業1回目の振り返り

5.1.1 Listening

「簡単だったこと」については、5・6年生ともに共通してPart 1・2の「絵を選ぶ」を選んだ児童が多く、特に5年生では約79%、6年生では約89%と非常に高い割合を示しました。一方、学年による差が見られたのは、Part 3の「最も自然な対話を選ぶ」とPart 4の「2人の会話に関する質問に答える」の項目です。これらの設問は6年生の方が「簡単だった」と感じた割合が高く、より複雑な会話内容にも対応できる力が育っていることがうかがえました。

また、「難しかったこと」については、Part 3の「最も自然な対話を選ぶ」やPart 4の「2人の会話に関する質問に答える」について、5年生の方が難しいと感じた割合が高く、学年による英語の聞き取り力や会話理解力の差が反映された結果となっていました。また、両学年共通してPart 5の「電話のメッセージ」が難しいと感じられており、これは聞き取りの長さや情報量の多さに起因する可能性があります。この結果をもとに、授業2回目「Listening特化」の問題を選定しました。(4.2.2 使用問題とその選定理由参照)

5.1.2 Reading

「簡単だったこと」については、5・6年生ともに「簡単だったことはなかった」と回答した児童が一定数おり、設問の難易度がすべての児童にとって必ずしも易しいものではなかったことがうかがえます。これは、先述の通り、Readingの設問が小学校学習指導要領の範囲を超える範疇であったことからすれば、

納得できる結果と言えます。

一方で、Part 1「絵を見て単語を選ぶ」、Part 2「文章を読んで単語を選ぶ」、Part 3「表から読み取る」のいずれの設問においても、6年生の方が「簡単だった」と感じた割合が高く、とりわけPart 3では5年生が約40%だったのに対し、6年生は70%以上が簡単と回答しています。これは、6年生の読解力や視覚情報の処理能力がより育っていることを反映していると考えられます。

「難しかったこと」では、5・6年生ともにPart 1「絵を見て単語を選ぶ」を難しいと感じた児童は少なく、基本的な語彙理解に関しては両学年で安定していることがうかがえます。一方、Part 3「表の読み取り」では、5年生の方が「難しかった」と感じる傾向が顕著に見られました。また、「難しかったことはなかった」と回答する児童は6年生の方が多く、5年生の時の1年間と6年生の5年生の時の1年間と6年生の年度当初からの学習によって、6年生がReading全体をより自信をもって取り組んでいたことが分かります。

このように、Readingの設問においては、学年が上がるにつれて情報処理や読解の負荷に対する耐性が強まり、「簡単」「難しい」の感覚に明確な差が現れていることが読み取れます。これは、日頃の学習経験の蓄積や語彙量・構文理解力の向上が反映された結果といえます。この結果をもとに、授業3回目「Reading特化」の問題を選定しました。(4.3.2 使用問題とその選定理由参照)

5.1.3 自由記述から見られたこと

5年生の回答には、「初めて」「全体的に

難しかった」といった表現が多く見られ、テスト形式や内容への戸惑い、漠然とした困難さがうかがえました。これは、TOEFL®形式の問題にまだ十分に慣れていないことや、英語でのListening・Readingに対する不安感が背景にあると考えられます。従って、その不安感を徐々に取り除くということに、事前授業を行うことの価値があると考えました。

一方、6年生の記述には、ListeningとReadingのどちらが得意か、どの力を伸ばしたいかといった具体的な自己分析や学習目標が表れており、自分の学びに対して主体的に取り組む姿勢が見られました。英語学習の経験が積み重なっていることで、普段の授業の中で育まれていると推察される、自信や展望が見えました。

6年生の具体的な回答例：

- ・「Listeningは全問正解できたからReadingの勉強に集中したい」
 - ・「練習問題は意外と簡単でした。でも満点は取れなかったので次は頑張ります」
- このように、学年が上がるにつれて自分の得意・不得意を把握し、次回の目標を立てる力が育っている様子が見取れます。一方で、共通して「聞く・読む」の挑戦を通じて「がんばる姿勢」を示している点は、どちらの学年にも見られる大きな成果であり、英語学習に対する前向きな姿勢が根付いていることがうかがえました。

5.2 授業2回目の振り返り

4.2.2 使用問題とその選定理由でも示した通り、第2回の授業においては、第1回の振り返りを参考にPart 1を除くPart 2～5の問題を重点的に選定したため、振り返りでは5・6年生ともに「普通」と感じた児童が最多

となり、Listeningの難易度に対する認識に共通点が見られました。一方で、「難しかった」と回答した割合は5年生が第1回から大きく増加(+18.2ポイント)しており、難しさを強く感じている様子が見られます。

6年生はやや増加にとどまり、選定した問題の妥当性と、全体的に児童のListeningに対する対応力が高まっていることが示唆されました。両学年の自由記述には「前より聞こえた」「単語がわかるようになった」などの前向きなコメントが多く見られました。

また、第2回から追加された「前回よりできるようになったか」という設問に対しては、5・6年生ともに50%以上が「できるようになった」と実感しており、自身の成長を肯定的に捉える傾向が見られました。特に5年生では「とてもできるようになった」と回答した児童が13%以上おり、取り組みを通じて自信を深めていることがうかがえます。

さらに、児童の自由記述からは、「がんばって聞き取れるようになった」「次はReadingをがんばりたい」など、やる気や次への意欲が多く記されており、挑戦を継続する力が育ちつつあることが明確に表れています。「最後まであきらめずにできた」「集中して聞いた」といった努力の実感や、「聞き取りのコツがわかった」という学びの言語化が見られ、学びに向かう姿勢が着実に育まれている様子が見られます。

5.3 授業3回目の振り返り

第3回の振り返りでは、5・6年生ともに「普通」と感じた児童が最多であり、難易度に対する共通した印象が見られました。選定した問題のレベルが適切であったと考えられます。Part 3では、「難しかった」と答えた

割合は6年生の方が高く(6年生：47.0%、5年生：32.1%)になりましたが、これは、授業の後半で、読みに自信を持っている6年生の児童向けにPart 3を配布し、5年生は授業の中での読みの経験が少ないことから、自己選択式の課題設計をしたことによると考えられます。6年生の自由記述からは、「知らない単語があっても文の流れで意味を考えた」や「もっと早く読めるようにしたい」といった、読み方への工夫や意欲が見られ、長文であっても諦めず文の意味を深く捉えようとする6年生ならではの学習姿勢がうかがえました。

第1回Readingとの比較では、特に5年生において「読める単語が増えた」「意味がなんとなくわかった」といったコメントが増えており、3回の学習の中でも読解力の伸びを感じた児童の存在が確認できました。

また、6年生は以前よりも難しさを感じた児童が増えているものの、これはPart 3を実施したことで、語彙や構文理解に加え、時間配分や情報整理など、読みの質への意識が高まっている証とも捉えられます。

全体として、Readingに対する児童の姿勢はより主体的かつ粘り強くなっており、「文のしくみを理解した」「あきらめずに最後まで読んだ」といった回答も多く見られました。テストに向けた振り返りを通じて、児童たちの読む力だけでなく、自己調整力や学習意欲が育っていることが明確に表れた結果となりました。

5.4 成長の分析(縦断的視点)

第1回から3回までの授業とその振り返りを通じて、児童の自由記述には「聞いた」「読めた」「自信がついた」といったポジティブな感情表現が徐々に増え、とくに6年生では

一貫して20%以上の記述に肯定的な表現が見られました。一方、5年生では第2回に一時的な落ち込みが見られたものの、第3回で自己選択式の課題設計を取り入れたことでやや回復し、「前より読めた」「意味がつかめた」などの成長を実感する言葉が増えました。これは指導者が児童の振り返りを参考に指導の流れを調整したことによって、得られた結果であると捉えられます。

また、心理面においても、当初は「難しかった」「たいへんだった」といった戸惑いや不安を表す記述が中心でしたが、回を追うごとに「集中したい」「全部読めるようになりたい」などの次への前向きな目標を含む記述が増えており、自己調整力や学習意欲の高まりがうかがえます。

このように、ポジティブ表現の割合が着実に上昇し、「できなかった」から「少しできた」「やってみたい」へと、児童の心理的成長が進んでいることが明らかになりました。これは、3回の事前授業で問題に触れ、問題を間違えた際の分析や解き方についてのピアラーニングを行った成果と言えるでしょう。今後、テスト結果を手にしてからの学習活動においても、こうした内面の変化を捉えた支援が重要になると考えられます。

6. 活用のポイントと今後への期待と展望

6.1 TOEFL Primary®活用のポイント

TOEFL Primary® は点数による序列化を目的とせず、児童一人ひとりの「熟達度」を客観的に捉える手段として位置づけることで、学習過程そのものに光を当てる評価へと転換することができると考えています。結果は絶対評価の材料ではなく、授業内のパフォーマンスやポートフォリオと突き合わせながら、「どの技能が伸びつつあるか／次に何を学ぶべきか」を児童・教師双方が確認するためのフィードバックに用いることが可能です。こうしたプロセス評価を通じて、児童は自己の英語力をメタ認知し、学習目標を自律的に設定できるようになることを目指しています。実際、今回の事前学習を通じた振り返りでは、「聞けた」「読めた」「自信がついた」など、目標を達成していく姿が見られました。

6.2 MEXCBT(メクビット)の今後への期待と展望

今回の事前学習では、児童の実態に合わせて教師が問題を選定して授業を進めてきましたが、これらを MEXCBT(Computer Based Testing) の環境で実施すれば、自分のレベルに合わせて問題を自分で選んで学習が可能になること、またTOEFL Primary® のスコアと「実際のアウプット」を同一プラットフォーム上で照合し、パフォーマンステストとしての信頼性を高めることができます。そこで、本校でもMEXCBTを児童の端末で学習できるように準備を進めてきました。しかし、私立の学校法人でMEXCBTを使用する場合は、公立校とは異なり、教育委員会による管理・支援がないため、学校法人および校内での

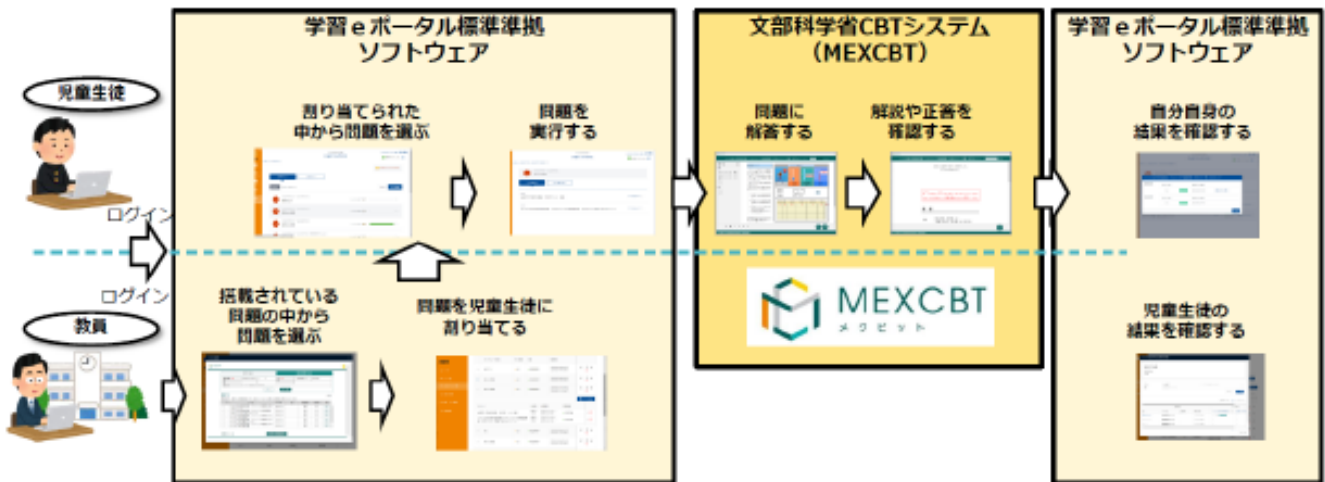
主体的な(※8)手続き・準備が必要でした。一例を挙げると、学校法人本部レベルで行うべき手続き・準備として、利用申請・登録、管理責任者の設置、個人情報・セキュリティ対策など、学校(校務・現場)レベルで行うべき手続き・準備として、端末環境の確認、児童へのアカウントの配布、MEXCBTへのアクセス方法の説明など多岐に渡ります。授業者が事前授業の準備をしつつ、児童がMEXCBTを使用できるように至るまでのステップが難解で、有用なものがあるにも関わらず、児童がそれを活用するまでに多くの課題が山積されていることが課題であると考えられます。

将来的には、児童が主体的にMEXCBTを使って学習を進められることを期待したいです。文部科学省もそれを狙ってMEXCBTの整備を行ったものと理解しています。今後は、特に中学校・高校での英語学習と連携させ、「できるようになったこと」を可視化し、学習者自身が年間を通して学習を進められるよう、活用の仕組みも検討する必要性を感じています。

(※8)『令和5年度「英語教育実施状況調査」の結果を踏まえた生徒の英語力向上にむけた取組の推進等について(通知)』P7より)

MEXCBTの操作イメージ (教員向け)

別添



- 児童生徒 1 人につき、1 つのアカウントを用いて、学校、家庭を問わず、事前に登録された問題を児童生徒がオンライン解答することができます。また、多肢選択式及び完全一致式の問題は、即時に自動採点され、結果が表示されます。
 - ※ 令和 5 年 12 月時点では、全国学力・学習状況調査の過去問題、中学校卒業程度認定試験、高等学校卒業程度認定試験の過去問題など、国が開発した問題に加え、地方自治体から提供された問題、PISA の公開問題、英語検定・数学検定等が搭載されています。
 - ※ 児童生徒向けの解説がある問題もあります。
- MEXCBT は、設置者、学校、利用者とも無償で活用することが可能です。
- 解答結果については、学習 e ポータル標準準拠ソフトウェア上で確認することができます。

(出典) 文部科学省 CBT システム (MEXCBT : メグピット) 文部科学省 総合教育政策局 教育 DX 推進室

22

問題配信 (実証用学習 e ポータル) 問題検索、問題内容、問題情報の確認

テストを選択



教科から選ぶ

問題の種類 **英語_英語** (2)

形式 **多肢選択式**

検索 (3)

問題一覧

No.	タイトル	教科/学年	形式	問題情報	配信情報	詳細
1	Next Step 1.1 (B1C2) (JOPRA2) (英語)	外国語 (英語) 共通	多肢選択式	問題情報	配信情報	詳細
2	Next Step 1.2 (B1C2) (JOPRA2) (英語)	外国語 (英語) 共通	多肢選択式	問題情報	配信情報	詳細
3	Next Step 1.3 (B1C2) (JOPRA2) (英語)	外国語 (英語) 共通	多肢選択式	問題情報	配信情報	詳細
4	Next Step 1.4 (B1C2) (JOPRA2) (英語)	外国語 (英語) 共通	多肢選択式	問題情報	配信情報	詳細
5	Next Step 1.5 (B1C2) (JOPRA2) (英語)	外国語 (英語) 共通	多肢選択式	問題情報	配信情報	詳細
6	Next Step 1.6 (B1C2) (JOPRA2) (英語)	外国語 (英語) 共通	多肢選択式	問題情報	配信情報	詳細
7	Next Step 1.7 (B1C2) (JOPRA2) (英語)	外国語 (英語) 共通	多肢選択式	問題情報	配信情報	詳細

①「問題の種類から選ぶ」を選択

②「文部科学省_英語学習問題」を選択

③「検索」ボタンをクリック

④「タイトル」と「問題情報」から問題を選択

⑤ 配信問題を選択

(参照) 文部科学省 CBT システム (MEXCBT : メグピット) 文部科学省 総合教育政策局 教育 DX 推進室作成

https://www.mext.go.jp/content/20240318-mxt_syoto01-000013393_2.pdf

7. おわりに～目的意識を育み、未来へ向けた英語学習へ～

本校は、TOEFL Primary® を単なるテストとしてではなく、児童の学習や教師の授業に「意味づけ・価値づけ」を行う評価手段として位置づけています。児童の英語力をランク付けしたり成績をつけたりするためではなく、学びの成果を客観的に捉えるツールとして、また児童自身が次のステップを的確に理解するための手がかりとして活用しています。加えて、保護者に向けても、児童の英語力や学習の到達度を客観的に示す資料として提供しており、家庭との連携を深めるうえでも有効な手段となっています。

今回の取り組みを共有することが、「英語ができる・できない」といった枠にとらわれず、児童一人ひとりが「なぜ英語を学ぶのか」「英語を使って将来何をしたいのか」といった目的意識を育み、未来へ向けた英語学習へとつながることを願っています。そして、TOEFL Primary® の活用が全国の学校現場に広がり、先生方の創意工夫のもと、日本の子どもたちの英語力の向上を客観的に示す一つの証として位置づけられていくことを期待しています。



幡井 理恵

所 属： 昭和女子大学附属昭和小学校 英語教育アドバイザー
聖学院大学教員養成課程 担当講師

学 歴： 昭和女子大学大学院 言語教育・コミュニケーション学科修了(修士)

職務経歴： 公立小学校、私立小学校、短期大学、大学、大学院まで多様な教育現場での
指導経験を持ち、カリキュラム策定・授業改善・教員研修を実施。

活 動： 日本児童英語教育学会(JASTEC) 理事

ELEC同友会英語教育学会 理事

検定教科書 光村図書Here We Go! 著作関係者

J-shine 小学校英語指導者育成トレーナー

EduBridge 代表

メタメトリックス社公認レクサイルエデュケーター

MEXCBT(メクビット)が利用できない環境の団体様へ 非売品模擬テスト 3 回分の無料提供サービスについてのご案内

MEXCBTをご利用いただけない環境の団体様に、以下の無料サービスご提供のご案内です。一般社団法人 国際教育英語試験協会(GEET)では、TOEFL Primary®およびTOEFL Junior®を団体で実施しているすべての団体様に対し、非売品の模擬テスト問題集（全3回分）を、指導案や活用方法付きでデータにて無償提供しています。

特に、小学生・中学生向けの「TOEFL Primary® Step1」模擬テストには、CEFR A1未満および、A1レベルの問題が各回に含まれており小学校における英語学習にも非常に有用です。なお、この模擬テストは、市町村教育委員会との契約を通じて、地域（市町村）や義務教育学校、国立の小中学校などでの導入実績もある、信頼性の高い無料サービスです。

詳細は、25と26ページをご参照ください。また、下記、一般社団法人 国際教育英語試験協会（GEET）へご確認・お問い合わせください。

Email: info@gia-geet.com

非売品データ版
「TOEFL Primary® 模擬テスト」

構成



【Listening 設問の音声】
問題冊子の各Listening セクションの冒頭にQRコードがプリントされています。iPadやスマートフォンでそのQRコードを読み取るとリスニングの問題音声再生されます。

既に韓国で販売されている人気問題集の日本語翻訳版。ReadingとListeningセクションの本番形式3回分の模擬テスト(問題/解答集)が収録されています。

◎TOEFL Primary® Step 1 目標スコア216~218

英語学習を始めたばかりの初期段階の学習者を対象に、学校、自宅、運動場などの親しみやすいシチュエーションにおける日常生活に密接したテーマを扱ったテストです。基本的な語彙や表現を用いた、簡単な指示文や学習に関連する短い文章の理解を問います。

◎TOEFL Primary® Step 2 目標スコア226~230

英語のコミュニケーション能力が発達している中級段階の学習者対象に、日常生活の枠を超える簡単なストーリーと会話の内容の理解に必要な基本的な表現、依頼文、指示文、教科に関する文章の読解を問うテストです。

対象



活用方法



【鄭京淑 (ちよん・きよんすく) 先生 (翻訳・解説) からのメッセージ】

1回目のテストを本番テストと同様の時間配分で取り組み、テスト形式と内容に慣れましょう。そして学習者自身が採点をして、間違えた箇所を復習してもう一度本番テストと同様の時間配分で取り組みましょう。その後、2回目のテストまでの多読・多聴の目標を設定して、目標を達成した後テストに取り組みましょう。3回目も同様に取り組むことで、自身のレベルを知るだけでなく、テスト1回目から3回目までの間に語彙力と読解力を高めることができます。時間内に問題を解くには、日ごろからレクサイル指数を意識して大量の多読・多聴をしましょう。

非売品データ版「TOEFL Junior® Test 模擬テスト」をご活用いただくにあたり・・・

データを提供させていただく説明情報に関しては、日本国内の利用権を一般社団法人 国際教育英語試験協会 (GEET/ジート)が所有しているため、校内でのファイル共有やプリントとして配布する等、ご自由にお使いいただけます。先生方は、授業や練習などでテストとして活用したり、指導の参考資料として利用いただくことも可能です。児童生徒は、実テストを受験する前の練習や模擬テストとしてもご利用いただけます。
(韓国)株式会社METACURIO教材コンテンツ契約

非売品データ版
「TOEFL Junior® Test 模擬テスト」
指導案

構成



- ◆ IBの考えに基づいた「英語言語活動」のとらえ方
- ◆ 「言語機能」の定義
- ◆ 一般的に行える4技能英語言語活動を紹介
- ◆ TOEFL® 問題集を活用したインタラクティブで生徒主体の指導案
- ◆ TOEFL Primary® Step 1, Step 2, Junior®それぞれのレベルでできる活動案
- ◆ 全問題分析表とサンプルレッスンプラン+授業のポイント
(※現在制作中)

【本ガイドMethodologyセクションから一部抜粋】

「TOEFL®の学習を始める際、まず初めに問題演習に取りかかりたいと思う先生方もいるかもしれない。しかし、TOEFL®の問題に直接取り組む前に、フォニクスとフォニミック・アウェアネス(音素認識)の基礎をしっかりと身につける必要がある。また、フォニクス指導と並行して、文学的な文章や情動的な文章を、リスニング、スピーキング、ライティング、対話的な課題と関連づけながら読むという一連の学習を通して、バランスの取れた読み書き能力を養う必要がある。」

活用方法

目標設定

1. 英語力の向上
2. テストテイキングスキルの向上
3. アセスメントとして活用する

効果的な授業設計の6つのポイント

1. 導入
2. 語彙知識と背景情報
3. 誤答の活用
4. 音読、音読筆写
5. 知らない単語の取り扱い方
6. 成功体験

指導案概要:

P2~: 取り組み方、言語機能について紹介しています。

P3: 基礎能力を養うべく、活字の概念、音韻知識、フォニクス、単語認識について紹介しています。

P3~: 一般的に行える4技能活動の考え方と提案です。生徒のレベルやニーズに応じて、取り入れる活動を選択して行うことをお勧めしています。

P14~: 本問題集を活用したTOEFL Junior®活動案を紹介しています。



指導案概要動画
はこちらから。

非売品データ版「TOEFL Junior® Test 模擬テスト」をご活用いただくにあたり・・・

データで提供させていただく範囲情報に關しましては、日本国内の権利を一般社団法人 国際教育英語試験協会 (GEET/ジート)が所有しているため、校内でのファイル共有やプリントとして配布する等、ご自由にお使いいただけます。先生方は、授業や勉強会などでテストとして活用したり、指導の参考資料として利用いただくことも可能です。児童生徒は、実テストを実施する前の練習や模擬テストとしてもご利用いただけます。
(韓国)株式会社METACURIO教材コンテンツ契約

